

毎日5分でも10分でも木刀に触るようにし、リハビリのためのウォーキングや体操、スクワットなどの筋トレも少しずつ続けました。低気圧が近づくと足がビリビリしびれ、思うように動かなくなるのですが、審査会当日は幸い天候に恵まれ、体が普段通りに動きました。

よく「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」と言われますが、今回はこんな状態だったような気がします。

これまでは「落ち着き方や攻め方」をあれこれ考えながら臨んでいました。

今回も同様だったのですが、蹲踞をすると「掛け声だけは負けずに。」という気持ちになりました。

立ち上がり、目いっぱい声をかけながら攻めていきました。気が付くと出ばな面の手ごたえがあり、相手の顔が見えました。が、打った意識はありませんでした。

その後もお相手二人とも面と小手が何本か入ったような感触はあったのですが、記憶はあまりありません。終了後は打突姿勢のまずさが印象に残り、あきらめて早々に観覧席に引き上げてしまいました。

結果的に合格したわけですが、自分としては不思議な体験でした。

現在は、短時間であれば仕事も、週2回の稽古もできるようになりました。今後も課題を持って、少しずつ良い方に向かうよう努めていきたいと思えます。

六段昇段までの思い

鈴木 泰子

栄町 文武育成会

今年5月、名古屋審査会にて昇段することができました。日頃よりご指導を頂いております文武育成会の先生方を始め、女子稽古会の秋葉先生、先輩の先生方、一緒に稽古し、アドバイスを下さった多くの方々に支えられ、合格する事が出来たと心から感謝しております。

前回受けた東京会場では、高校の顧問の先生が会場に足を運んで下さり、立ち合いを見て「待ちすぎ」「足が止まっている」「攻めの姿勢が見られない」等の辛口のコメントを頂き結果不合格。

その反省を頭に刻み臨んだ5月の審査会、正直なところをお話しさせて頂くと、ちょうど2か月前に、不本意にも胸骨を骨折する怪我にみまわれ、稽古ができなくなりました。

一か月後に素振りを始めるも痛みが出てしまい、医師より素振り禁止の指示、審査前の大切な時間、剣道ができない日々が続きました。

完治しないままで、名古屋に行こうかやめようかと、悩んでいたところ、娘が「一緒に行くから行こう。」主人が「受けなければ合格はない。」と、胸骨が痛むなか背中をおしてくれました。そして腹が決まりました。

会場では、ご指導下さった先生方の言葉を再度思い浮かべながら、イメージトレーニング。



立ち合い一人目「始め」の言葉と同時に攻める、いつでも打ち出せる姿勢を作る、ためる、相手が出て来ない、もう一度攻めて打つ。

初太刀は相面ではありましたが、相手の面をとらえることが出来、次の返し胴、二人目の出ばな小手など有功打突と思われる打ちが出来ました。

気持ちの上でも気負いがなかった事が合格の要因の一つかと思っています。

これからも初心を忘れる事なく、日ごろの稽古より基本重視の剣道を心がけ、更に自分の剣道と向合い、向上心を胸に、一步ずつ道を歩んで行かれたらと思っています。

六段合格に向け取り組んだこと      小木曾 忍      印西市 直心剣友会

この度、長野で行われた六段審査会に於いて、合格をいただきました。

昨年の夏、福岡で初めて受けて以来、四回目での合格でした。

正直なところ、一回目の福岡での審査では、会心の切り落としが決まり、一発合格だと思いましたが不合格でした。

二回目の東京、三回目の名古屋も同様でした。

名古屋での単身赴任時代にお世話になった先生に、「相手に合っているだけで、弾けるような打ちがない。可もなく不可もない。」という立ち合いの感想をいただき、今の剣道ではダメなんだということに気付き、どうすれば合格できるか考え、その後の稽古に取り組みました。



それまで、「相手をじわじわ攻めて、出てくるところに出ばなを打つ」ことを基本にしていたのですが、単に相手に合わせて打っているだけだったようです。

そこでその後の稽古では、「もっと明確に自分から攻め込み、相手を引き出して打つ」ことをテーマにして取り組みました。

その結果が今回の長野での審査では、「攻めて相手を引き出し、その出ばなを打つ」が上手くでき合格する事ができました。

三度審査に不合格になりましたが、そのおかげで自分の剣道を見直し、一歩進めることが出来たので、この三度の不合格は無駄ではなかったと思っています。

これからも、常に自分の弱点を見つけ成長できるよう、たくさんの先生方と稽古を続け、次のステップに向かって、精進したいと思います。

いつも稽古をつけてくださる先生方、子供たちに感謝いたします。